

川崎市と横浜市が連携して化学物質と環境に関するセミナーを開催しました

市では、化学物質による環境汚染の未然防止と環境リスクの低減に向けた取組を進めています。今年度は横浜市と連携して、市民、事業者の皆様を対象に次のとおりセミナーを開催しました。今後も、化学物質に関する情報発信を行い、化学物質対策の推進に努めてまいります。

- サイエンスカフェ（11月8日（土）、鶴見公会堂）
おいしい紅茶を飲みながら、1960年代に化学物質の危険性について警鐘を鳴らしたレイチェル・カーソンの著書を通して、環境について考えるひとときを過ごしました。
- 化学物質対策セミナー（11月25日（火）、川崎市役所第4庁舎）
環境省の山崎氏による国の化学物質対策の最新の動向や、独立行政法人製品評価技術基盤機構の竹田氏、藤原氏によるリスクコミュニケーションに関する解説、味の素株式会社による地域とのコミュニケーションの取組事例についてのご講演をいただきました。
- 環境リスク評価講習会（11月26日（水）、川崎市産業振興会館）
環境を通じて人や生態系に影響を及ぼす可能性を評価する「環境リスク評価」の基礎的な解説のほか、実際にパソコンを利用して解析評価演習を行いました。



【環境リスク評価講習会の様子】

問い合わせ：環境局企画指導課（化学物質担当） TEL 200-2533 FAX 200-3922

大気中の放射線量モニタリング結果（平成26年12月）

市では、環境総合研究所（川崎区殿町）、中原大気測定局（中原区小杉町）及び麻生大気測定局（麻生区百合丘）で、建物屋上及び当該測定地点の地表面付近の放射線量（ガンマ線）について測定を行っており、12月の測定結果は次のとおりです。

詳しくは市ホームページをご覧ください。

- 建物屋上（連続測定）・・・約0.03～0.04マイクロシーベルト/時間で推移（12月15日現在）
- 地表面付近（月1回測定）・・・測定結果は次のとおりであり、いずれの地点、高さにおいてもほぼ同じ数値で推移

単位：マイクロシーベルト/時間

地表面からの高さ	環境総合研究所 (土・草地)	環境総合研究所 (アスファルト)	中原大気測定局 (アスファルト)	麻生大気測定局 (土・草地)
100cm・50cm・5cm	0.04	0.05	0.05～0.06	0.05

※マイクログレイ/時間で測定した値をマイクロシーベルト/時間に換算して表記しています。

※原子力規制庁によると、「緊急時は、1グレイ=1シーベルト」として換算します。

※文部科学省によると、一般的な自然界の放射線量レベルの範囲は0.03～0.1マイクロシーベルト/時間です。なお、神奈川県が川崎市内5か所に設置しているモニタリングポスト（地上約3m）の平成21年度（福島第一原子力発電所の事故以前）の年平均値は0.023～0.042マイクロシーベルト/時間でした。

市ホームページ：<http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000037968.html>

問い合わせ：環境局環境対策課 TEL 200-2516 FAX 200-3922

浮島埋立処分場における放射能濃度等測定結果（平成26年12月）

市では、ごみ焼却灰の埋立に伴い、廃棄物の最終処分場である浮島埋立処分場の敷地境界で空間放射線量（ガンマ線）の測定を行っております。また、埋立処分場の内水等の放射能濃度（放射性セシウム濃度）についても測定を行っており、12月の測定結果は次のとおりです。

詳しくは市ホームページをご覧ください。

- 埋立処分場空間放射線量（連続測定）・・・0.048～0.079マイクロシーベルト/時間で推移（12月15日現在）
- 埋立処分場の内水等・・・測定結果は次のとおり

単位：ベクレル/L

	測定値	基準等	測定頻度
埋立処分場内水	2.2～3.2 (検出下限値:1.0)	国の目安値 75 本市の管理目標値 10	週2回
放流水	放流が無かったため、未測定 (検出下限値:1.0)	国の目安値 75 本市の管理目標値 10	放流時
外海水	放流が無かったため、未測定 (検出下限値:1.0)		放流時

※上記掲載の測定値は、11月16日から12月15日までの期間に測定したものになります。

市ホームページ：<http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000045121.html>

問い合わせ：環境局処理計画課 TEL 200-2590 FAX 200-3923